



松尾 時雄

日本カーバイド工業
取締役社長

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク #243



奥村 洋治
フジタ
取締役社長

地道に実績を築く

「海外で働きたい」という一心で過ごした学生時代。今思えば、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を当時読んだことをきっかけにそう思い始めたのであろう。

当時から海外で広く実績のあったフジタに入社したのは1983年のこと。入社2年目で念願の海外勤務を命じられ、最初の赴任国は1985年、戦争真^{ただ}只中のイラク。130kmの高速道路を造る現場の労務管理や会計処理などの業務を任された。砂漠のど真ん中にあるキャンプで、1日100人ほどのワーカーを工期中限られた予算の中でケアすることが私の任務であり、日々苦悩しながら過ごした。食料の輸入調達から労働者の雇用契約まで幅広く担当すること5年、1990年に高速道路が完成し、大きなやりがいと自身の成長を感じることができた。

帰国後は経理・財務部門で為替関係の知識を身に付け、1993年からは営業職として中国へ。建設分野では当時、上海を中心に投資ブームが巻き起こっており、その中で担当したいいくつかの大型案件では、外国特有の長期間に及ぶ現地企業との契約交渉に、イラクでの経験を活かすことができた。1996年からは香港営業所長として約10年間、香港を中心に中国全域をカバーするようになり、その後、国際事業部長の職に就くこととなった。それからは担当エリアが世界全域となり、2005年にはメキシコ支店を新たに開設。自動車産業の生産拠点のメキシコへの移動を予測し、自動車メーカー各社から大型工場建設工事を多く受注することに成功した。

学生のころからの夢であった海外勤務を大いに^{かな}叶えることができたが、その中で一番思い入れがあるのは中国。建設業では中国進出は後発組の当社だが、中国とはしっかり付き合っていける会社にするという目標の達成に尽力した。10年以上、懸命に取り組み続けることで、ようやく本物の成果が出てくることを学んだ。現在では、中国・メキシコにおける当社の実績は業界でも上位にある。今後も特定のエリア、特定の分野でのNo1を増やし、企業としての強みを形成していきたい。そのためには小さい仕事から地道に堅実に実績を築いていくことに尽きるのではないかと。

▶▶ 次回リレートーク

馬本 英一

日本テクノ
取締役社長